



令和6年度 第1回 こども部会（令和6年6月14日開催）

資料 1

委員からのご意見・質問と区の考え方

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
1	伊藤委員	【プレーパーク事業】 今後の方針に新たな利用者を増やしていくとあるが、どのような方法がありますでしょうか。	明確にこうすれば増えるという具体的な方法というのは、なかなかありませんが、定点型がいいのか、巡回型がいいのかも含めまして、今後の在り方を検討して参りたいと思います。	当日の回答のとおり	子育て支援担当
2	山村委員	【こども生活・まなびサポート事業】 登校支援等の対象者は小中学生という認識で良いのか。	登校支援・見守り支援員は小中学生を対象としています。学習姿勢を向上させるための支援員は小学校低学年を対象としています。また、別室登校の生徒を対応するための居場所支援員は中学生を対象としています。	当日の回答のとおり	子育て支援担当
3	山村委員	【障がいのある子どもや親の孤立防止支援事業】 安定したつながりを維持できるよう支援する世帯を令和5年度から3年で100%とする目標は達成したとなっているが、支援を必要としている499世帯について、全てつないだという認識で良いのか。 また、支援を必要とする世帯が増えれば、その世帯もつないでいくということが良いのか。	手帳の交付等の状況から、つながりが必要な499世帯のアプローチは既に終了している状況です。これまでつなげていた世帯については、支援を継続していきます。 また、新規手帳取得者など新たに支援を必要とする世帯が増えた場合も対応していきます。	当日の回答のとおり	子育て支援担当
4	伊藤委員	【その他】 大阪万博への参加を促すアンケートを学校単位で全校実施しているが、様々な報道があり、多くの保護者から不安の声がある。また、引率する教員が不安のまま児童を連れて行くのは避けたいと思っています。 区の事業ではありませんが、区があちこちに宣伝するのは最低限やめてもらえないかと思っています。	担当部局にお伝えします。	当日の回答のとおり	子育て支援担当



令和6年度第2回 こども部会（令和6年7月8日開催）

委員からのご意見・質問と区の考え方

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
1	山村委員	不登校の要因の割合を出すことはできるのか。	文部科学省の調査(令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果)によりますと、無気力・不安というのが約50%、生活リズムの乱れや非行・遊びが約11%、いじめを除く友達関係をめぐる問題が約10%、親子の関わり方8%、学業の不振が5.2%となっており、様々な要因となっている。	当日の回答のとおり	子育て支援担当
2	片上委員	西成区は他の区に比べて毎日の宿題と夏休みの宿題の量が確実に少ないと思われる。他の区は夏休みに読書感想文が必須の宿題として出るが、西成区は必須ではない。本を読む機会を強制的に与えないと子どもたちは本を読まない。これが小学校1年生から小学校6年生までの積み重ねとなると読解力が身に着かず、大きな差が出てくるのではないかと思う。 数学や英語に関しては積み重ねであるが、国語や社会、理科は本人が興味をもつことで成績がぐんと上がったりする。学校の先生以外に西成ジャガピースクールなど異なる先生に教わることによって興味を持てて成績が上がるのではないか。	それぞれの学校の教育方針があるかもしれませんが、そのあたりは校長先生の集まる場などがございますので、そちらのほうで情報収集等させていただきたいと思う。 色々な先生に学ぶことによって興味を持ち成績が伸びていくということもあると思う。西成区は様々な事業を実施しており、色々なレベル、学年に応じて学習塾も実施していますので、事業者と連携して、よりよい内容にしていくように努めて参りたいと思う。	当日の回答のとおり	子育て支援担当
3	片上委員	現在は不登校になったとしても、多くの選択肢があって学校に行かないといけないという理由が昔に比べてなくなってきている現状があり、支援すればするほど学校に行く意味がないというふうに思ってしまうところが難しい。	学校に通わせるという結果だけを目指すべきではないというような考え方に文部科学省もなっており、児童生徒が主体的に自分の進路を考えて、社会的に自立できるようにするということが一番大事なことだと思う。 学校に通うのが良いのか、あるいは他の選択肢が良いのか、そういったことを踏まえながら、それぞれの立場、役割で児童生徒に関わっていただきたいと思う。	当日の回答のとおり	子育て支援担当

委員からのご意見

議論のテーマ「西成区の教育環境について」

【学力向上について】

- ・西成区は様々な学力向上や不登校対策などの事業をしており、知らなかったので感心している。
- ・学力はすぐに上がるものでないが、家庭でも、学校でもどうにかして、少しでも上げていける方法があったらいいと思う。

【不登校対策について】

- ・不登校になる原因は個々の子どもによって違うと思うが、学校・家庭・市民・地域団体・NPO・企業の中でどこが一番キーになっているかというのも、一例として学校と言った場合でもまずは担任の先生になると思う。けれども、中学校2年生の生徒で、1年生の担任の先生と通じ合えたことでどのように取り組めば分かったという例が幾つかある。どうすればいいのかというのはあると思うが、保護者が気づいたことを学校のほうに言ったとしても、そんなことはなさそうに終わってしまてはいけないと思う。例えばクラブ活動されていたり違う関わりがあるところ全てが大事だと思う。
- ・保護者がしっかりしてくれたため、不登校から抜け出せたケースがあったが、家庭があって、学校があってお互い大変だと思うが、お互いに目を見て、話をしていけたらいいと思う。
- ・不登校については、不登校になる原因があると思う。その問題を解決するのは地域や学校であったりすると思うが、学校の先生に任せきりにするのではなく、地域と保護者の家族の方で支えてあげることが大切だと思う。また、不登校になると子どもが辛い思いをするので、朝早くに起きて、制服に着替えて学校の正門にタッチしに行くことを1週間続ける。2週間目は、学校が開いている時間帯に1歩入るなどチャレンジをしていき少しずつ慣れていくことが大切だと思う。
- ・不登校の理由として家庭環境や友人関係、いじめや勉強関係などがあげられるが、不登校の理由は様々で、理由によって支援するところや内容が異なってくる。不登校の要因の割合を出すことができればと思う。出すことが出来たら、今後の地域、区、学校の対応が変わってくると思う。

※今回の区政会議では、委員に身近なテーマで様々なご意見をいただきました。いただきましたご意見は、今後の区政の参考とさせていただきます。

経営課題① 子どもの夢がひろがるまち

外国につながる児童生徒の学習言語定着支援事業

4 決算額

0千円

5 予算額

0千円

6 予算額

9,934千円

目的

日本語で日常会話はできるが、学力に課題がある児童生徒(小学校4年生～中学校3年生)を対象に、母国の学校では教わっていない内容や、日本語習得中に授業を受けたため十分に理解できていなかった内容などの補習を行うために放課後学習を実施します。教科学習を通した日本語指導を行うことにより、学習に使う日本語(学習言語)の定着と学力の向上につなげます。

令和6年度の実施内容

- ・児童生徒3名に対して講師を1名配置し、個別の学習指導を行います。
- ・講師は「やさしい日本語」で教えており、学力に応じて指導するため、小学校1年生～3年生の教材も用意しており、ルビを振っている教材もあります。

進捗状況

- ・受講開始: 6月27日より鶴見橋中学校教室。
6月28日より岸里小学校教室。
- ・受講申込者数: 定員65名に対し、小学生14名、中学生7名。(9月13日現在)

〈教室での様子〉



経営課題① 子どもの夢がひろがるまち

学力分析に基づく演習を活用した苦手分野克服事業

4 決算額

0千円

5 予算額

0千円

6 予算額

7,533千円

目的

区内全中学校で、模擬テストを通じて、生徒個々人の苦手とする分野を分析し、また、苦手分野に応じた演習問題での反復演習をすることで、学力の向上を図ります。

令和6年度の実施内容

- ・事業対象 区内中学校に在籍する中学生
- ・実施内容 5教科(国語・数学・英語・社会・理科)の模擬テストの作成、テストの採点・分析、苦手分野の反復演習用問題の作成を、事業者へ委託します。
各学校では、模擬テストの実施と苦手分野の反復演習を行います。



事業の流れ

① 模擬テスト

② 採点・分析

③ 演習

学力向上

進捗状況

- ・中学3年生: 5月31日に模擬テストを実施し、7月5日にテスト結果等を生徒に返却。個々の苦手分野の演習問題に取り組み、大阪府が行う中学生チャレンジテストに臨んだ。(9月3日実施)
- ・中学1・2年生: 12月2日に模擬テストを実施し、令和7年1月下旬にテスト結果等を生徒に返却予定。

経営課題① 子どもの夢がひろがるまち

発展型学習支援事業

4決算額

0千円

5予算額

0千円

6予算額

16,293千円

目的

家庭の経済状況に関わらず本人が志望する水準の高校への進学ができるように、学習機会を提供し、更なる学力向上をめざします。

令和6年度の実施内容

小5・6(西成ジャガピースクールアドバンス)

場所：区内小学校（6か所）

教科：国語・算数・英語

時間：週2回 各回1時間

小3・4対象の西成ジャガピースクールからステップアップし、進学を見据えて、小学校で習得しておく必要がある内容の学習

中1～3(西成特別進学塾)

場所：区内中学校（1か所）

教科：国語・数学・英語

時間：週3回 各回2時間

中3は、理科・社会の夏期・冬期講習（プラス40時間）も実施。

高校進学に向けた発展的な内容の学習

進捗状況

- ・小学校5・6年生：定員140名に対し、44名の参加。5月に授業開始。
- ・中学校1～3年生：定員40名に対し、39名の参加。5月に授業開始。

